

望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方 ～児童が主体となる児童会活動～

日立市立滑川小学校

1 はじめに

所属集団の一員としての自覚をもち、学校生活を向上・発展させるため自主的に活動していく態度を育てることを目標に、児童会活動の支援を行ってきた。特に本校の児童は自己肯定感がやや低いため、児童の達成感を味わうことができるよう活動のRPDCAサイクル化を図った。そして、徐々に子供たちに任せていくような活動を計画し、実践した。

2 資料

(1) 実践事例

ア 年間計画

	実施月	内容
さわやかマナーアップ週間①	6月	・見回り挨拶運動・8時着席の確認と放送
夏休み前の呼びかけ	7月	・「SOSの出し方」について放送
創立記念週間	11月	・じゃんけん挨拶運動・学校クイズ
いじめ0（ゼロ）集会	11月	・劇「悪口のゆうぴんやさん」・いじめ0スローガンの発表
さわやかマナーアップデー	12月	・昇降口でのあいさつ運動・クリスマスクイズ
さわやかマナーアップ週間②	2月	・昇降口でのあいさつ運動

イ 集会活動

本年度は新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、「創立記念集会」ではなく「創立記念週間」として、校内放送を中心に実施した。また、人権週間と併せて、運営委員主体の「いじめ0（ゼロ）集会」を実施した。密にならないよう兄弟学年の3ブロック（1年と6年・2年と5年・3年と4年）に分けて行った。4年生からブレ運営委員を募集し、一緒に活動を行い、3年と4年ブロックを担当した。子供たちのいじめに対する考えを刷新するとともに、5・6年生の運営委員としての自覚の向上や来年度は運営委員になりたいという4年生の意欲に繋がった。

ウ さわやかマナーアップ週間

感染症予防対策や言葉遣いなど児童自身が課題と感じていることを組み合わせて活動を計画した。活動後の振り返りでは、成果を認めるとともに、課題について問いかけ、次の活動に繋がった。



4 成果と課題

- 学校の課題の解決方法を考えて主体的に行動するようになった。また活動を通して自分たちで学校を変えることができるという充実感を得られ、自己肯定感が育ってきた。
- 児童の活動が活発になることで、事前準備・打ち合わせなど休み時間に実施することが多く、教員の負担も増えた。働き方改革と特別活動の兼ね合いを考えていくべきだ。